

武井 泰¹⁾、窪川佳世²⁾、前澤美代子^{1) 2)}

1) 山梨県立大学看護学部

2) 山梨県立大学認定看護師教育課程

【今後の展開 商品イメージ応用できる分野】

産学官連携による感染管理認定看護師教育課程の教育への取り組み

背景・目的

背景

山梨県では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前、感染症専門医は県内に1名であり、感染管理認定看護師（Certified Nurse in Infection Control：CNIC）は24名と全国で下位に位置していたことが報告されている。COVID-19への対応では、感染症専門人材の不足や個人の努力に依存した体制が課題として指摘され、感染症対応人材の育成が重要な課題となった。こうした背景を受け、山梨県では感染管理専門人材の育成を目的として山梨県立大学に感染管理認定看護師教育課程を開設した。

目的

山梨県立大学認定看護師教育課程における感染管理認定看護師教育および修了後支援の取り組みを報告し、地域感染管理体制強化への役割について考察する。

実践

教育課程では、医療機関内の感染対策にとどまらず、感染管理を地域全体の課題として理解できるよう、廃棄物処理施設（写真1）やリネン工場（写真2）等の見学を実施している。また、県および医療機関、保健所が合同で実施した新興感染症訓練への参加を通して、感染対策・感染管理は医療機関や介護施設のみで完結するものではなく、行政や他施設の多職種との連携のもとに成り立つことを学び、地域全体で取り組む感染管理を体験的に学ぶ機会としている（写真3）。



写真1：廃棄物処理施設見学



写真2：リネン工場見学



写真3：新興感染症訓練参加



写真4：修了生（CNIC）が他施設の看護師に指導

また、感染管理プログラム作成演習を通して、自施設における感染対策の課題分析や改善計画を具体化できるカリキュラムを展開している。さらに修了後は、実践成果を学会発表や研究活動につなげるためのフォローアップ研修を実施している。

加えて、修了生が地域の看護職を対象とした研修会の講師を務める機会を設け、教育課程での学びとともに自施設で培った実践知を地域への還元、人材育成へとつなげている（写真4）。

成果

教育課程開設後、山梨県の感染管理認定看護師数は24名から48名へ増加した。さらに、2025年12月現在、看護職員1,000人当たり4.60人となり、全国平均2.73人の約1.7倍で全国上位の配置密度となっている。

また、修了生は自施設での感染対策活動に加え、感染管理認定看護師のネットワークを活用した地域セミナーや施設支援に参画している（写真5）。地域住民や医療・介護従事者への感染対策の普及啓発、認定看護師不在施設への相談支援・指導、他施設職員を対象とした研修を通して、地域における感染対策の知識・技術の向上と施設間連携の強化につなげている。

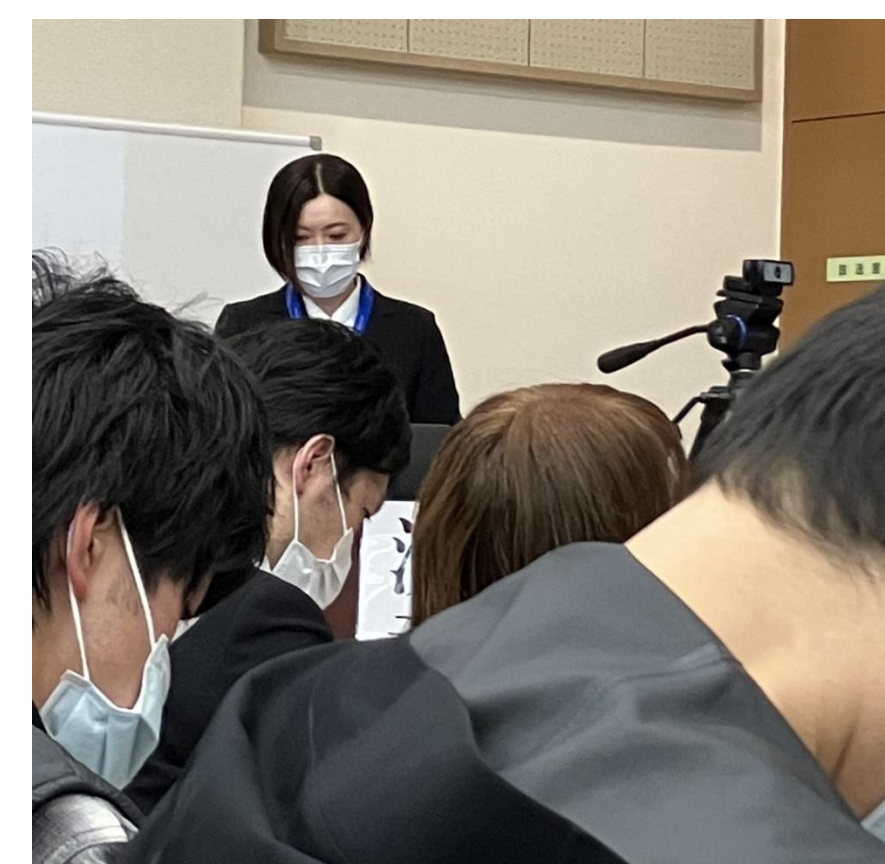


写真5：修了生（CNIC）が地域のセミナーで講義

考察

COVID-19を契機として、山梨県では感染管理認定看護師の育成が進展し、感染管理専門人材の量的拡充が図られた。一方で、2040年に向けては高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少が進み、地域完結型医療や多機関連携の重要性が一層高まるとされている。

日本看護協会「看護の将来ビジョン2040」では、看護職には地域の健康課題を俯瞰し、多職種・多機関をつなぐキーパーソンとしての役割が求められている。感染管理認定看護師についても、自施設の感染対策のみならず、地域の医療機関、介護施設、行政等をつなぐネットワークの形成と地域全体の感染対策を支える役割が重要であると考えられる。

感染管理認定看護師教育課程の開設と修了後支援は、感染管理専門人材の育成および地域感染管理体制の強化に寄与した。今後は感染管理認定看護師同士のネットワークをさらに強化し、医療機関、介護施設、行政等との連携を推進することで、2040年を見据えた持続可能な地域の感染管理体制の構築が求められる。